

37 - 37 有明海干潟上における大気 - 海面 - 陸面間の エネルギーフラックスに関する研究

環境システム工学科 助 手 田 中 健 路
沿岸域環境科学教育研究センター 教 授 滝 川 清
大学院自然科学研究科 前期過程 成 松 明

干潟域における大気 - 陸面 - 海面間の物質・熱エネルギー相互作用を解明することを目的として、熊本港北東側干潟域において観測塔を設置し、自動気象観測を実施してきている。本研究では、自動気象観測で得られた気象データを基に、バルク法を用いて地表面熱収支の特性について解析を行った。陸域や沖合いの海域においては、大気側への顕熱・潜熱輸送は日射などの放射過熱に伴う日周期変化が卓越しているが、干潟域では日射に加えて、干出・冠水のサイクルに伴う地表面状態の周期的変動が重大な寄与をもたらす。特に、冬季においては、夜間に浸入する海水が干潟上の大気への熱源として重大な寄与をもたらすことが確かめられた。

(第51回海岸工学講演会論文集 pp.1131-1135 , 2004年11月)